

2019年5月29日（水）

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 ピーター マクミランさんWS 『扇の草紙』英訳をどう活かすか

1, 2019年度7回目のご来館

2019年5月29日（水）、マクミランさんと2019年度初めてのワークショップを行いました。

今回は、マクミランさんがこれまで取り組んでこられた『扇の草紙』二点（屏風『扇の草紙』¹、卷子本『阿不幾集』²）に含まれるのべ66首の和歌の英訳を俯瞰的に見ることで、日本文化の特徴を抽出できないか、というテーマでした。そのため、共同プロジェクトを締



¹ 国文学研究資料館蔵。貴重書。請求記号：99-151（新DB→<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200015700/viewer>）

² 国文学研究資料館蔵。貴重書。請求記号：99-73（新DB→<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200006812/viewer>）

³ 凸版印刷株式会社と国文学研究資料館は、日本文化の多様性や魅

結している凸版印刷（株）³の方も、オブザーバーとしてワークショップに参加してくださいました。



力をデジタルコンテンツで再創造し発信する共創プロジェクトを行っています。

プロジェクトの概要：

<https://www.toppan.co.jp/news/2018/10/newsrelease181029.html>

記者発表の動画：<https://www.youtube.com/watch?v=cAccOptosEo>

2, 翻訳プロセスの持つ意味

ないじえる芸術共創ラボの中でマクミランさんと一緒に行ってきたワークショップでは、和歌をそのまま英語に置きかえるということではなく、従来の研究の積み重ねをふまえてより和歌の理解を深め、それぞれの和歌の魅力を最大限に活かしつつ、英語の詩として表現しようとしてきました。

その過程で、英語圏にはない文化の在り方や価値観が浮き彫りになることを目撃された凸版印刷さんは、このワークショップでのプロセスの中にこそ、日本文化を読み解くヒントがあるのでは、と意見を述べられました。

3, 日本文化のキーワードを考える

それでは具体的に、これまでの過程で出てきた様々な問題や気づきの中から、どのような日本文化の特徴を取り出し深めてゆけば良いのでしょうか。

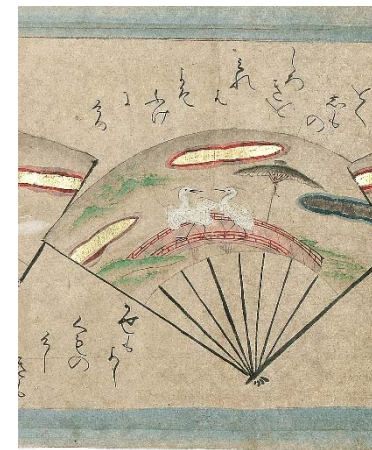
マクミランさんはまず、「絵と文字の関わり」を挙げてくださいました。

マクミランさんは、絵と文字とが融合していて、作る側も鑑賞する側も、その2つの要素を区別していないことが、『扇の草紙』に限

らず日本文化の大きな特徴のひとつだと考えておられます。

たとえば屏風の『扇の草紙』には、3つの連なった扇をまたぐように桜の絵が描かれており、それぞれの和歌とは別の世界観を表現しています⁴。また、背景に描かれた柳と散らし書きの和歌は、それぞれ絵のようでもあり文字のようでもあり……眺めていると、文字も柳とともに揺れ出しそうな感覚が訪れます。

そして何度もイベントでとりあげている、かささぎの表現(『阿不幾集』)。マクミランさんは、かさと鷺の絵で「かささぎ」という言葉を表現してしまう遊び心が大好きなのだそうです。



⁴ 詳細は、2019年1月16日のワークショップについての古典インタプリタ日誌に綴っています。

(https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/diary_contents/macmillan_310_116.pdf)

2019年5月29日（水）

こういった文字と絵の関係—絵は文字の説明ではなく、文字は絵の説明ではない—の特殊性について、マクミランさんは西洋の事例を以て説明してくださいました。

たとえば『イカロスの墜落のある風景』という絵画⁵についてウィリアム・カーロス・ウィリアムズが詠んだ同題の詩は、絵画から主題を得て詠んだものであり、それぞれが別の世界観を表現するものではないのだとか。

こういった事例を教えていただくと、『扇の草紙』などにみられる文字と絵の関係は、西洋での芸術の在り方とは違うのかもしれないと考える手掛かりになります。



⁵ 画像の引用は、次のサイトによる。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%AB%E3%83%AD%E3%82%B9%E3%81%AE%E5%A2%9C%E8%90%BD%E3>

この日はほかにも、「自然と人間の関係について」「言葉遊びの面白さ」「扇の文化」「歌枕⁶」「恋愛観」などが、キーワードとして提案されました。

とくに「恋愛観」は、現代の私たちにもつながるところがあり、これまであまり和歌に馴染みがない人にも、和歌に親しんでもらうきっかけとなりやすいのではないかと、等と意見が交わされました。

次回以降は、抽出したキーワードを示す和歌と絵にはどのようなものがあるかなど、これまでとは違った視点で、『扇の草紙』の和歌について、さらに深い議論が交わされることになるでしょう。



<https://www.wakkyo.com/entry/20190529>

⁶ 和歌にしばしば詠み込まれる特定の名所、旧跡。